

支援の輪広げよう

重症心身障がい児

地域交流懇談会

沼仙気

県重症心身障がい児流懇談会「沼仙気」が二(者)を守る会(秋元俊十一日、同事務所で開か(通達長)と沼仙沼保健福れた。

る家族を地域の中で支えていくため、障がい児(者)への理解を深めてもらうとともに、支援の輪を広げよう」と初めて開かれたもので、家族をはじめ、市町関係者や各社協、施設の関係者ら約五十人が出席した。



講話する阿部幸泰さん

秋元会長は「親同士が仲間を作り、相談しながら、行政にニーズを聞いてもらえるような環境をつくっていかねばならない」とあいさつ。

同会の紹介のあと、地域生活プランナーの鈴木陽子さんの「地域福祉コーディネーターの役割」についての講演と、尚絅学院大学の阿部幸泰さんの「地域において重症心身障がい児(者)の

親として出来ること」の講話があった。

阿部さんは「障がい児である前に子供なんです。子供を理解し、支援してもらうためにも、親が勇気を持ち、地域に我が子がいることを知ってもらう努力をすることが大事です。そのために親同士の連携が大切」と話していた。